



2019年6月10日

各 位

会 社 名 日 機 装 株 式 会 社
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 甲 斐 敏 彦
(コード番号 6376 東証第1部)
問 合 せ 先 執 行 役 員
コーポレート部門長 小 糸 晋
(TEL. 03-3443-3717)

国内生産拠点の再編に関するお知らせ

当社は、日本国内における生産および研究・技術開発拠点を見直し、再編することを決定しましたので、下記のとおりお知らせします。

記

1. 国内生産拠点再編の目的

当社は、事業環境の変化に適切に対応し、さらなる成長を成し遂げるため、これまでにCryogenic Industriesグループ（米）の買収や宮崎・ベトナムにおける新工場の建設など、成長に必要な先行投資を実施してきました。また、事業基盤の最適化・効率化と各機能の強化を図ることで、収益力の改善と企業価値向上を目指しています。

その一環として、分散している国内の生産、研究・技術開発拠点を再編し、生産体制や機能の集約・最適化を図ると共に、技術者の育成や品質管理体制の確立を目指します。

2. 国内生産拠点再編の内容

(1) インダストリアル事業の生産工場の移転および東村山製作所の機能変更

東村山製作所から、キャンドモータポンプおよびクライオジェニックポンプ等の製造を行うインダストリアル工場を宮崎工場へ移転します。

東村山製作所は、1960年の竣工以来、当社のポンプ生産拠点として、キャンドモータポンプやクライオジェニックポンプ等を製造してきました。しかしながら、竣工から60年近く経過し、設備の老朽化や外部環境の変化により生産効率改善や生産能力拡大に限界が見えてきたことから宮崎工場への移転を決定しました。

この移転により、生産効率向上、生産能力拡大とともに、抜本的な調達、物流および業務プロセス改革を実施し、インダストリアル事業のさらなる成長を目指します。

インダストリアル工場移転後、東村山製作所は、当社の研究・技術開発拠点等への活用を検討しており、最終的な再編完了時期は2022年末を予定しています。

(2) 研究・技術開発拠点の移転および技術開発研究所（静岡）の機能変更

技術開発研究所（静岡）を東村山製作所へ移転します。技術開発研究所の移転後、静岡拠点は、メディカル事業の物流拠点、テクニカルサポート・トレーニングセンター等への活用を検討しており、最終的な再編完了時期は2022年末を予定しています。

(3) 航空宇宙事業の生産拠点の集約

航空宇宙事業の生産工場を東村山製作所および技術開発研究所（静岡）から宮崎工場へ移転します。この移転により、航空宇宙事業の国内拠点は、金沢と宮崎に集約されます。

3. 国内生産拠点再編に伴う宮崎工場への追加投資

東村山製作所インダストリアル工場の移転とクライオジェニックポンプ試験設備の建設による追加投資を実施します。

インダストリアル工場建設	約 95 億円
うち、クライオジェニックポンプ試験設備	約 55 億円

【宮崎インダストリアル工場の概要】

敷地面積：	約 24,000 m ²
延床面積：	約 12,000 m ²
建設計画：	2020 年末クライオジェニックポンプ試験設備建設完了 2020 年末インダストリアル工場建設完了 2021 年ポンプ生産移管完了
採用計画：	2021 年までに 100 名程度

4. 業績に与える影響

本件が 2019 年 12 月期連結業績に与える影響は軽微であると予測しています。次期以降の影響につきましては、明確になり次第、必要に応じて公表していきます。

(ご参考) 拠点別各事業・機能の概要

	再編前	再編後
東村山	インダストリアル事業 航空宇宙事業	研究・技術開発拠点等
静岡	研究・技術開発 航空宇宙事業	メディカル事業の物流拠点、サービス・トレーニング拠点等
金沢	メディカル事業 航空宇宙事業	メディカル事業 航空宇宙事業
宮崎	航空宇宙事業	航空宇宙事業 インダストリアル事業
白山	深紫外線 LED 事業	深紫外線 LED 事業

以上